

月刊アドバタイジング・書評

田中 洋（法政大学経営学部教授）

1998年7月25日

「文明の衝突」サミュエル・ハンチントン著・鈴木主税訳・集英社・554頁、1998年6月30日刊、2800円+税金。

アイデンティティ・クライシス？

社会主義圏の崩壊は「歴史の終わり」（ヘーゲル）をもたらさなかった。噴出したのは国と民族のアイデンティティの危機であり、異なる文明の衝突であった。著者ハンチントン教授の区別によれば、世界には9つの異なった文明が存在する。西欧・ラテンアメリカ・アフリカ・イスラム・中国・ヒンドゥー・東方正教会（ロシアなど）・仏教・日本である。現在の世界危機の根底にあるのは、これら文化同士の対立なのだ。

なぜ文化的アイデンティティが現在、対立を助長しているのだろうか。ひとつの理由は、社会的経済的近代化の結果非西欧の力が増したことだが、我々は単に「異なる者に対して敵意を持つ」からだ。

ところでハンチントン教授は日本について「最も重要な孤立国」と呼び、周辺諸国と文化的つながりがない文明のひとつに数えている。これは正しいと同時に間違っている。というのは日本に西欧のような意味での「アイデンティティ」は存在しないからだ。アイデンティティ概念が生じたのはほぼ西欧文明のみであり、他の文明のアイデンティティは西欧との衝突から生じている。だから日本人にアイデンティティ・クライシスは存在しないし、「文明の衝突」もない。

日本にアイデンティティが存在しない理由は、我々が本当の意味で他の文明と衝突したことがなかったからだ。日本文化は他の文明と接触しながらも、直面しないで済ませてきたのだ。この事実は「グローバル化」する現在のビジネス環境にとっても無縁の問題ではない。本書は何よりもまずビジネス書として読まれるべきである。

(了)